

# オホーツクの風

平成22年4月6日(火) 創刊号

発行所  
北見赤十字病院の  
明日を考え支援する会  
事務局  
北見市緑ヶ丘1-10-16  
Tel 0157-61-0684

## 日赤の現状を知る

### 支援の一步をふみだす

北見赤十字病院の明日を考え支援する会・略称日赤を考え支援する会以下当会といいますが、当会が発足して3ヶ月が過ぎようとしています。その間役員が中心になり当会の運営について試行錯誤の議論を重ね、当面の課題を支援する北見赤十字病院(以下北見日赤と言います)の現状を知ること認識が一致しました。

毎月第二火曜日に定例の役員会が開催され、この打ち合わせには北見日赤の総務課長さんにご足労を戴き、勉強を続けています。一般的に法人・団体のことを知るには決算書だといわれます。北見日赤を知るには決算書を読み解くことです。現在は平成20年度の資料を基に作業を進め

ています。あと2ヶ月もすると(1)一般会計、平成21年度歳入歳出決算(収支計算書)(2)医療施設特別会計、平成21年度歳入歳出決算(損益計算書)が発表になります。正式な読み解きはこの資料で行う予定です。

同時に道内の公立病院の決算も調べています。特に財政支援をどのくらい受けているかが解るように表にまとめている最中です。今問題になっているのは、財政支援については、公立病院に関する財政措置、病院事業等に係



オホーツクのロマンに誘う流水ノロッコ号(写真:逢坂信治)

わる地方交付税措置などの勉強からはじめていきます。どこまでまとめられるかわかりませんが、皆で頑張っているところですよ。

難解な医療制度そして数字を扱う作業が多くて頭が痛くなり、作業が止まる事もありますが、そんな時、谷川代表が愉快にのんびり進めましようよと声をかけ、作業は進んでいきます。

北見日赤との信頼関係を更に深め、膝をつき合わせた本音の対話を推し進め、情報共有

を目指します。医師、看護師、コメディカルの医療スタッフにどんなエールを送る事が出来るのか、日赤と街のお医者さんと地域住民がどんな連携を出来るのか。北見日赤への医師の招致などまちづくりの面からどんな支援が出来るかなど患者であり市民である私たち会員に課せられた課題は大きいのですが、構想は大きく、着手は小さな小さな一歩からと受けとめて、その一歩を踏み出したところですよ。

「北見赤十字病院の明日を考え支援する会」は発足総会を平成22年1月29日午後6時30分より市民会館で開催し、今年度(平成22年度)の役員を選出しました。

代表 谷川勝男 副代表 逢坂信治、森實和美 理事 荒田悠、表宏樹、菅野幸子、齋藤高明、松岡清子(五十音順) 事務局長 阿久津俊子 会計 庄司春江 会計監査 阿部治夫

## 創刊号によせて 代表 谷川 勝男

読書グループ「木よりの会」が始まったのは五十年前、北斗高校文芸部の現役OBが一堂に会してガリ版刷り「裸心の会」をつくりはじめたのも同じ頃、仲間の一人に長野県佐久病院の若月俊一先生にあこがれて保健婦になった女性がいました。

くり返し語っていた彼女の熱い思いを、今、思い返しています。現在、老人医療費が全国一安く、住民の五割以上が在宅死を迎えられるのが長野県、すべて地域医療の確立を目指した若月俊一先生のお仕事があつてのことです。

「支援する会」の小さな、あまりに小さな旗のむこうに夢見るのは、北見赤十字病院が、道東の佐久病院として「予防医学」をにない、住民の「生」と「死」をケアする大きな旗を振って下さる事です。この「オホーツクの風」が、心ある人々にとどくことを願ってやみません。